

## 茶道で繋がる心

愛媛県立新居浜西高等学校三年（愛媛県）

## 柴山 晴香

ゆったりとした時間の流れ。お湯を注ぎお茶を点てる、どこか落ち着きを感じる音。生け花や茶碗に見られる芸術の数々。茶道は、体全体で感じることでできる魅力に満ちている。

中学校入学とともに茶道を始めた私は、茶道という道を選択して六年目になる。始めた当初は手探りのまま、所作をただひたすら覚える日々であった。だが、茶道について知り、人と触れ合う中で、その魅力にだんだん惹きつけられた。

私は、初めて先輩や先生がお茶を点てる姿を見たとき、何とも言い表せないような感動を覚えた。和室全体が凜とした空気に包まれて、私の視線は釘付けになった。この心酔と憧れの念は、私をより一層茶道に精進させたのである。それだけではない。隣に座っている人へ、お茶やお菓子を出す相手、或いは出してくれた人への一言。茶碗を回す、

自分がお点前の際に振り返る向きを変えるなどといった細かな所作。これらは相手や見ている人への気遣いに基づくものである。この意味を知ったとき、私は正直驚いた。それまでは意味など考えずにしていたが、茶道をする上で心を込めるといふことの大切さを実感した。

茶道においては、人と人との触れ合いもまた重要である。同じ和室の中という空間を共有し、目と目を合わせて少しの言葉を交わすだけで、心を通わせることができる。私は茶道部の部活動をしていると、いつも心をすっと落ち着けることができる。落ち着いた静寂の間、その中に人と人との心の繋がりが生まれるのが感じられる。

このように、茶道は私たちの生活を豊かにし、心のゆとりをもたらす。日々時間に追われる現代の私たちにとって、これは大きな意味を持つのではないだろうか。

近年はコロナ禍で、飲食を伴う茶道ができなくなっているのは紛れもない事実である。だが、このような時代にこそ、茶道を通じて心に余裕を生むこと、皆が心を通わせることが必要であると私は思うのだ。私はもつと多くの人に、茶道について知ってもらいたい。茶道は難しそうだという印象を持たれがちである。だが、作法一つ一つに込められた意味を理解し、茶道の素晴らしさに気が付いてほしいと思う。そして、茶道を通じて、皆の心に温かさやゆとりが生まれ、思いやりに満ちた社会になることを願っている。